

琉球大学学術リポジトリ

秋野菜育苗の問題点

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲間, 操 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20443

秋野菜育苗の問題点

苗作りは野菜作りの重要な行事であります。

秋は春程に手数はかかりませんが、苗半作と云われていますように、苗の育て方は重要な技術だと考えられます。そのうち特に注意を要する問題点をあげますと、

- 1…苗床はどのようにすれば良いか
- 2…苗床の土や肥料はどのように準備すべきか
- 3…移植時の注意とその回数
- 4…定植時の植傷みの問題

と種々考えられますが、今回は1、2の問題、即ち苗床、床土と肥料の問題について御話し申し上げたいと思います。

1. 苗 床

苗床を準備するに当って位置の問題が考えられますが、先ず管理に便利であることが先決で、そのためにはつとめて宅地に近いところを選定することが望ましいです。その他、季節風が避けられ、日当りの良い排水良好な所を選びます。周囲には草むらや生垣があると害虫やアフリカマイマイ等の潜伏場所となり、思わぬ被害をこうむる場合が多いので、予め掃除をし消毒を行って置く必要があります。

2. 苗床の構造

普通苗床一基の大きさは巾1.2mに長さは適宜にとって良いのでありますが、管理の便宜上、3.6m位が適当だと思えます。更にこれに床の周囲は使い残した古い板材巾17cm程度のものを用いてわくを作った方が後の床土均しや管理に便利であります。次にこのような構えの床は何基位準備すれば良いかということが考えられますが、これは野菜の種類や栽培規模(面積)によって異つ

て参りますが、その一例を申し上げますと、

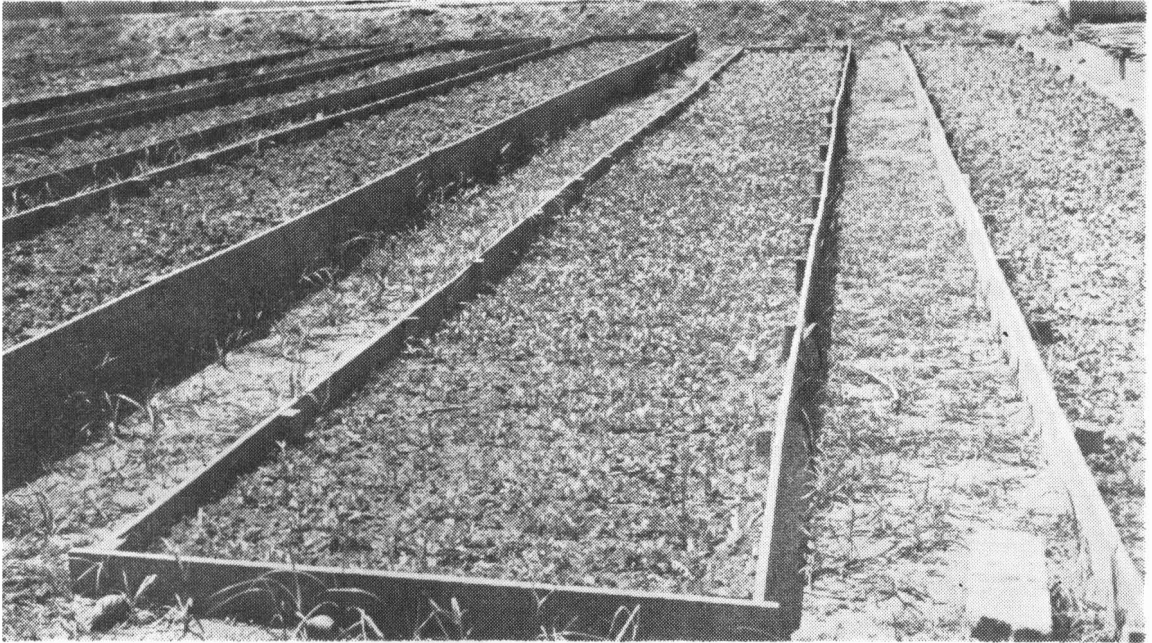
甘藍の場合、仮りに面積990平方メートルに要する苗を育成するとして、種子は大体0.09立(5勺)で播種床だけで9.9平方メートルから13.2平方メートル位必要ですし、その外に仮植を行うとすると、3-4倍位の床が更に必要になって参ります。又定植まで仮植を必要としない玉葱について申し上げますと、990平方メートルの播種量0.9立(5合)に対して39.6平方メートルから49.5平方メートルの苗床を必要とします。ですから予め作付面積を決定した方が良いと思われます。

3. 床 土

床土の善し悪しが土の保水力、保温、肥料の効果に影響があり、又苗の発育状況に関係しますので、たとえ秋の冷床が甘藍、玉葱、葱等のように比較的根の強い野菜類の育苗が主体であるとはいえ、春と同様充分な注意を払わねばなりません。

床土の主な材料は畑土と堆肥、それに生育に要する肥料が適当な割合で混合されなければなりません。このうち堆肥は良く腐熟したものであって、肥料の成分というものよりはむしろ土壤中に有機質を補給して土の中の組織を良くし、団粒組織にするためであります。

混合の割合は種類や土壌の性質によって異なりますが、大体畑土6-7に対し腐熟堆肥3-4の割合で混合したものが適当ですが、重粘土(ジャーガル)を用いる場合はこの割合に、更に砂を1-2程度混入した方がよろしいです。このようにして空気の流通を良くし保水を適当ならしめれば床土に与えられた肥料は分解が良くなり、幼



板材を用いてできたかんらの苗床

根の発育も良く養分の吸収も盛んに行われ、堅実に苗は育ちます。なお、この外に使用される床土の条件として、次のような点も注意しなければなりません。

育苗中、病虫害の発生を予防するために、床土は無病健全なものでなければなりません。そのためには前年に同じ種類の野菜を作ったり、又前作に茄類や瓜類の様なネマトダの着生の多い野菜を作った畑の土は極力避けなければなりません。このように前もって準備される床土は 各苗床に大体10cm位の厚さに敷きつめられるのですが、土壌害虫の予防として3.3平方メートルに対しアルドリノ粉剤 13-14 gr 又はヘプタークロール300gを散布し、床土と十分に混合するか、又 30cm間隔に深さ10cm位の穴をあけ、クロールピクリン2-3cc宛を滴下して土を均し、その上にカマスカムシロで覆います。前者の場合は散布後すぐ播種しても構いませんが、後者は10日-14日してから播種します。

4. 肥 料

苗床の肥料の成分の中で特に問題にされるのは窒素とリン酸で、加里は堆肥を充分施用すれば左程問題にはなりません。窒素リン酸は欠乏し易く、特にリン酸は生育中重要な成分ですが、土中での分布が少ないので冬を越す野菜類には耐寒性を増すためにも育苗期間中に充分吸収出来る様に施すことが大事です。

次に施肥量について申し上げますと、これは野菜の種類によって多少異なりますが大体次の通りになって居ります。苗床3.3平方メートルに対し、腐熟堆肥0.5kg、過リン酸石灰600grを元肥とし、その他に播種前草木灰800gr位を施し、土を良く均して、下肥は3倍にうすめたものを用います。この場合に注意しなければいけない事は、播種前に未熟堆肥や下肥などを用いますと種バエやケラ等の害が多くなりますので、これらの肥料は何れも充分に腐熟したものをを用いる様にしなければなりません。なお、堆肥の良く腐熟したものと過リン酸石灰を取りまぜて、播種予定1ヶ月前に施しておいた方が理想的であります。

(仲 間 操)